

1. 名称

日本語名: モバイルイントラネットセキュリティ分科会  
英語名: Mobile Intranet & Security WG

2. 設立の背景

高まるモバイルワーカーへの期待

電子デバイスの性能向上とブロードバンド通信インフラの普及を背景とした、モバイルコンピューティング&ネットワーキング環境(以下、モバイル環境)の発展に伴い、ノート PC を持ち歩いて仕事をする「モバイルワーカー」が増えている。ナレッジワーカーが「モバイルワーカー化」する事により、企業は社員の生産性向上と設備コストの低減を実現できると言われており、その取り組みが盛んである。

今後はさらに、リアルタイム性と広帯域を必要とするソフトフォンや Web 会議システムのモバイル環境への対応が進んで、社員がどこにいてもオフィスと同じ環境で仕事ができる「モバイルイントラネット」環境が実現する事が期待されている。

広まるクライアント PC セキュリティへの脅威

一方、昨年来、社内に持ち込まれたノート PC によるウィルス・ワーム被害や、ノート PC の盗難や紛失事件、個人情報への漏えい事件が多発しており、さらにこれらの問題を引き起こした企業が受ける巨大な金銭的、社会的ダメージが明らかになっている。そのため一部の企業では、セキュリティリスクの回避を優先するあまり、管理が不十分になりがちで、「ノート PC の社外持ち出し」や、「社外からのイントラネット接続」の全面禁止に踏み切るなど、モバイルワーカー化の流れに逆行する動きが広まりつつある。

上記の懸念は、世界に先駆けて無線・有線のブロードバンド環境が普及している日本で特に顕著である。よってそのセキュリティ対策も日本が率先して検討と開発を進めるべき状況にある。

クライアント PC のセキュリティと管理の現状

高まるセキュリティの脅威に対応するため、各メーカーではクライアント PC のセキュリティと管理を提供するシステムを数多く開発している。これらは大きく分けて下記の 4 種類に分類される。

No.	種別	セキュリティ、管理システムの例
1	ソフトウェア	ウィルス・ワーム対策ツール IT 資産管理ツール(アップデート管理ツール)、など
2	ネットワーク	認証 VLAN・無線 LAN VPN リモートアクセス(IPsec、SSL VPN、Mobile VPN) パーソナル FW、など
3	コンテンツ	URL フィルタ、スパム対策ツール ディスク暗号化ツール アクセス管理ツール、など
4	認証	パスワード強化(ワンタイム、マトリックスなど) バイOMETRICS クライアント証明書、など

さらに最近では、一部システムを組み合わせることによって、セキュリティ対策が十分でない PC を一時的に隔離して、セキュリティポリシーを強制的に適用する「検疫システム」も提唱されている。

#### 現状の課題

上記のシステムはそれぞれ十分な機能を有しており、個別に見れば普及が進んでいるものも多い。しかし、既に必要な機能を提供するツールが存在しているにも関わらず、現在の高まるクライアント PC への脅威を払拭する手段として、広く一般のユーザ企業が採用する状況には至っていない。この原因はこれらのシステムがユーザ企業にとって導入が難しいシステムになっている事が想定される。

一般的なユーザ企業にとって、毎年のように現れる新たな脅威の技術的な内容を理解し、既存システムとの整合性を考えた上で、自社の状況に最適な対策システムを導入・運営するのは、非常に手間とコストのかかる作業である。しかも、クライアント PC への対策には、異なるメーカーが開発した複数のシステムの連携動作が必要なため、その実現は通常の単独システムと比べて著しく困難である。

また、検疫システムは欧米ベンダーを中心とした検討が始まった段階にあり、特に日本において求められるモバイル環境に対する考慮が不十分である。

### 3. 分科会の目的

上記の状況を打開するには、各メーカーが協力してモバイル環境に適したクライアント PC のセキュリティ&管理の共通的なフレームワーク(枠組み)を確立し、各社製品の連携を進める事によって、ユーザ企業がこれらのシステムを導入しやすい環境を整備する必要がある。

そこで本分科会では、下記を目的とした検討を行う。

#### 分科会の目的:

モバイルワーカーが、社内と同様のセキュリティ対策と管理を施されたクライアント PC を、いつでもどこでも利用できる「モバイルイントラネット」環境を、各ユーザ企業が提供・利用できる状況を早期に実現するため、各要素機能を提供するシステムのメーカーが協力して、下記の検討と作業を行う。

- 1) モバイルイントラネットセキュリティ&管理フレームワークの確立
- 2) 上記を構成する各機能要素が連携するためのシステム間インタフェースの決定、又は選定

### 4. 活動内容(案)

上記の目的を達成するため、本分科会では下記の活動を行う。検討は定期的に行われる分科会ミーティングでの議論で行うが、必要に応じてワーキンググループを設置する事により、検討を加速する。

#### (1) モバイルイントラネットセキュリティ&管理フレームワークの検討

(検討にあたっての留意点)

- 今後のモバイルワーカーの増加を想定し、モバイル用ノート PC のセキュリティと管理を、社内設置のデスクトップ PC と共通的に行えるフレームワークを検討する。
- モバイル環境特有の要件である、リモートアクセス時の多様なネットワーク環境(周辺環境、回線速度・品質、など)を考慮した、現実的なフレームワークを検討する。

#### (2) 各システム間インタフェース(API)の決定

(検討にあたっての留意点)

- 新たなセキュリティ上の脅威の登場や、ユーザからの追加要望に柔軟に対応できる拡張性の高いインタフェースの検討を行う。
- 出来るだけ早い段階での各システムの連携を実現するため、新たなインタフェースの開発に拘らず、既にあるインタフェースの活用を促進する。
- 決定したインタフェース仕様は、基本的に広く一般に公開する事により、その普及を目指す。

#### (3) マルチベンダーシステムを統合した実証モデルの開発 (必要に応じて)

## 5. 期待されるメリット

本分科会の活動により、ユーザ企業、および各システムのメーカーやシステムインテグレーターが、下記のメリットを享受する事が期待される。

### (1) 新たなセキュリティ機能の容易な追加

- 新たな脅威に対処するために必要となる新カテゴリのセキュリティ&管理システムと既存システムとの連携が容易に行えるようになるため、その導入と運用がスムーズかつ効率的となる。さらに、全体として新たな脅威への対処を迅速に行う事ができるようになる。

### (2) 柔軟なセキュリティ・ソリューションの構築

- 各社のシステムを自由に組み合わせる事ができるようになるため、ユーザ企業の特性に合った最適なシステムを構築する事が可能となる。

### (3) トータルなセキュリティの実現

- 将来的に、クライアント PC 以外のシステム(サーバ、ストレージ、ネットワーク機器)のセキュリティ対策との融合により、企業情報システムのトータルなセキュリティの実現が可能となる。

## 6. 活動成果物(予定)

- モバイルイントラネットのセキュリティ&管理フレームワークのホワイトペーパー
- システム間インタフェース(API)の仕様書
- 検討内容に関する雑誌記事
- enNetforum 会合での発表
- 各種展示会での実証モデルの展示や検討成果の発表、など

## 7. 分科会メンバ(企業名五十音順)(予定)

主査	山田 敦子	モバイル・インターネットキャピタル(株)
副査	(未定)	
ステアリングメンバ	平井 真一	クオリティ(株)
	信太 智秀	ココヨオフィスシステム(株)
	白井 公孝	ソフトバンクパブリッシング(株)
	田口 潤	日経 BP 社
	飯島 明夫	日本電気(株)
	池辺 義裕	(株)ネットマークス
	佐藤 博	富士ゼロックス(株)
	清水 弘	松下電工(株)
ディスカッションメンバ	小宮山 晃	サードネットワークス(株)
	鈴木 成明	チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ(株)
	櫻井 三子	日本電気(株)
	坂本 兼一	日本電気システム建設(株)
	中村 裕	松下電工(株)
アドバイザ (T1 分科会リエゾン)	則房 雅也	日本電気(株) (T1 SSL VPN リモートアクセス分科会 主査)
事務局	干場 久仁雄	(株)インターネット総合研究所
	杉村 ますみ	(株)インターネット総合研究所

## 8. 他組織との関係(予定)

(未定)

## 9. 活動スケジュール(予定)

2004年11月	分科会発足、活動計画の策定、広報活動
2005年1月31日	分科会設立プレス発表
2005年2月	セキュリティモデル検討成果の発表(enNetforum セミナーを予定)
2005年3月	セキュリティモデルのホワイトペーパーの発行
2005年6月	システム間インタフェース ホワイトペーパーの発行
2005年7月	実証モデルの展示(N+I 2005を予定)

\* 毎月1~2回程度の分科会の開催を予定。